

## 夏の風物詩! 白石音頭で「みちのくしろいし」の夏を満喫!

### 2007白石夏まつり「白石音頭パレード」

8月11日、恒例の白石夏まつり「白石音頭パレード」が開催されました。今年のパレードには20団体・約1,500人の皆さんが参加。思い思いに趣向を凝らした衣装や山車などのほか、アレンジを加えた独自の踊りで観客の皆さんを楽しませました。

内容で、たくさんの人が「みちのくしろいし」の夏を満喫しました。



▲大人の部で準優勝の「よさこい走乱白石城」の皆さん



▲白石市消防団階子乗隊の皆さんによる「伝統はしご乗り」の披露

▶子どもの部で優勝した本郷第三地区子供会の皆さん

### 白石市伝統階子乗り保存会会員募集中!

昨年、火消しの心意気を今に伝えるはしご乗りを後世に引き継ぐため、白石市消防団階子乗隊を支援しようと「白石市伝統階子乗り保存会」を設立しました。白石の伝統文化を守るため、皆さまのご賛同をお待ちしています。

◎白石市伝統階子乗り保存会事務局 (生活環境課内) ☎22-1314

## 体験しよう! 健康づくり

### ホワイトキューブでさわやかフェスティバルを開催

7月21日、「体験しよう! 健康づくり」をテーマに、ホワイトキューブでさわやかフェスティバルを開催しました。



▲たくさんの人が訪れた検診コーナー

今年も骨粗しょう症検診や腹部超音波検診コーナー、歯の検診・相談コーナー、健康機器を用いた血圧などの測定コーナー、ヘルスマイトコーナーなどが設けられたほか、デューク更家さんのまな弟子・さくらだ千晶さんとウォーキングを楽しむ「ウォーキングでリフレッシュ!!」



▲優しく指導するさくらだ先生

## 楽しいゲームで疑似留学を体験!!

### 中学生のための英語開放講座

7月25日、スパッシュランドパークなどで中学生のための英語開放講座が開催され、市内の4校から22名の中学生が参加しました。

この講座は、3人の外国語指導助手と英語担当教師が、夏休みを利用して「生徒たちが気軽に英語に親しむ機会を」と企画した初めての試みです。生徒たちは、英語を使った「ものさがしゲーム」やクリケットゲームなどで指導助手の皆さんと楽しく疑似留学を体験していました。



▲ゲームの答え合わせもすべて英語

## 越河保育園児がジャガイモ掘りを体験

(7月24日、越河保育園)

越河保育園の園児32名が、園の隣の畑に今年4月に植えたジャガイモを収穫。園児の祖父母7名も参加し、一緒に楽しくジャガイモを土の中から掘り出していました。



▲取れたジャガイモを運ぶ園児たち

## 仙台89ersバスケットボールクリニック

(8月10日、ホワイトキューブ)

(社)白石青年会議所が主催した教室には、仙南各地区の高校から約130名が参加。攻撃や守備の基本動作など、真剣な表情でプロ選手の指導を受けていました。



▲プロの指導を受ける高校生たち

## ギャラリー喫茶「蔵楽」で押し花作品展

(7月4~30日、ギャラリー喫茶「蔵楽」)

中央公民館の押し花教室「花あそび」の皆さんが制作した押し花作品の展示会。自然風景や童話の世界など、その美しい作品を一目見ようとたくさんの人が足を運びました。



▲美しい作品に見入る来場者

「地震、雷、火事、親父」。これは皆さんご存じのように、人々が恐れるものを順に挙げた言葉です。上位3つは災いを招くものなの、なぜそこに「親父」が入っているのでしょうか? たしかに親父は怖いものでしたが、それはこちらに落ち度や、やましいことがあって怒られたのであり、災いではないはずですが…。

ちよつと気になったので調べてみたところ、以前は「親父」ではなく「山嵐」だったようです。これは「やまじ風」ともいわれ、農作物に多大な被害を及ぼす突風のことで、古語では台風を表すものだったようです。それがいつの間にか「やまじ」→「おやじ」→「親父」に変化したという説があるそうです。これなら何となく合点がいきます。7月の台風4号は雨台

## 風間市長の「虫のなつやま」 「二百十日」

風でした。本市では総雨量が238ミリに達し、床下浸水や土砂崩れ、のり面崩壊、川のはららんなどが発生して市内各所に多なる被害をもたらしました。特に市道の小久保平原線は、土砂崩れというより「山崩れ・山流れ」と

メートル以上の熱帯低気圧のことをいいます。古くは、野の草を吹いて分けるところから「野分」と呼ばれ、源氏物語や枕草子でもこの言葉が使われました。「台風」と呼ぶようになったのは、明治末期に当時の気象台長が「颱風」と

ようになります。今月1日が「二百十日」に当たります。「二百十日」とは、立春から数えて210日目、ちょうど中稲の開花期。そしてまた台風襲来の時期に当たり、農家では農作物への被害を警戒する時期とな

の転倒防止器具を取り付けるだけで、地震対策になります。まずは自分や家族でできる防災対策を! そして隣近所で協力し、話し合い、お互いに助け合うことで被害を最小に食い止める「地域の防災対策」をお願いします。

話は変わりますが、なぜレインコートのことを「カッパ」というのでしょうか?

でも表現した方が分かりやすいような状態で、現場に立った時に自然の、特に水の力の恐ろしさを身体で感じました。

「台風」とは、東経180度以西の北太平洋や南シナ海に発生し、中心付近の最大風速が毎秒17・2

いう語を使ったのが始まりのようです。ちなみに「颱風」という文字は、中国福建省地方で「台湾付近の風」という意味で使われていたようで、昭和21年に当用漢字が定まり「台風」となりました。このほかにも語源については諸説ある

ります。「災害は忘れたころにやってくる」という言葉のように、常日ごろから防災に努めていただきたいものです。地域の側溝の土砂やごみ払いを定期的に行うことで水害から家を守ることができずし、耐震診断の実施や補強、家具

【8月号の答え】  
「パーセント(%)」には「100につき:」という意味があり、100を「1」、「0」、「0」に分解し、並べ替えて「%」という記号を作ったという説が有力です。日本にも「八」、「十」、「八」を組み合わせた「米」という漢字があります。なかなか面白いですね。